

事務事業名		博物館展示事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	0 3 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	1 3 地域の歴史・文化資源の継承		区分	
	基本事業名	0 1 文化財の保存と活用		単年度繰返	
根拠法令		博物館法		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	教育委員会博物館		【開始年度】	
	課長名	伊藤 真紀子		昭和38 年度～	
	係名	博物館	電話	0192-29-2161	
	担当者	佐藤 貴裕	内線	-	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分	
<p>・市民や碓石海岸を訪れる観光客に対して、博物館資料を公開活用するための事業。</p> <p>・主な業務は、①常設展示の公開、②館内説明の実施、③展示資料及び展示設備の適正な維持管理、④常設展示資料の追加・更新、⑤たいけんコーナーの充実、⑥企画展示・特別陳列の実施、⑦企画展示図録の刊行。</p> <p>・事業費は、企画展示図録印刷費、企画展示・特別陳列消耗品費、展示資料借上謝金、展示用各種照明電球代、たいけんコーナー用消耗品などに支出される。</p>				E 一般	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金			
		都道府県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源			
	事業費計(A)			0	
人件費	正規職員従事人数				
	延べ業務時間				
	人件費計(B)			0	
				トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称	単位	
常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の維持管理、常設展示資料の追加・更新、開館40周年企画展「せきやの 洞窟ものがたり～4億年前からつづく関谷洞窟の歴史～」及び展示解説会、特別展「シン・大船渡」及び関連講演会、特別陳列「大船渡市の縄文土器ほぼ全部」展及び作業見学・体験会の実施。	ア	常設展示資料点数	点
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ	企画展示実施回数	回
常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の維持管理、常設展示資料の追加・更新、新収蔵品展Ⅰ・Ⅱ、考古展等の実施。	ウ	特別陳列、巡回・移動展示実施回数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
市民 碓石海岸を訪れる観光客	名称	単位	
	カ	人口	人
	キ	観光客入込数(碓石海岸)	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク		
展示事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
	名称	単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ	博物館入館者数	人
博物館資料が保存・活用される 次世代へ継承される	シ		
	ス		

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費 財源内訳	単位	年度						
			2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	国庫支出金	千円	0	681	230	197	200	200	
	都道府県支出金	千円	2,681	786	625	0	666	666	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	2,128	1,028	551	547	634	634	
	事業費計(A)	千円	4,809	2,495	1,406	744	1,500	1,500	
	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3	
	延べ業務時間	時間	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
	人件費計(B)	千円	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	11,209	8,895	7,806	7,144	7,900	7,900	
⑤ 活動指標	ア	点	1,506	1,506	1,506	1,506	1,506	1,506	
	イ	回	0	1	2	1	1	1	
	ウ	回	3	1	1	1	1	1	
⑥ 対象指標	カ	人	34,796	33,948	33,948	34,000	34,000	34,000	
	キ	人	71,868	64,862	77,041	100,000	100,000	100,000	
	ク								
⑦ 成果指標	サ	人	2,483	4,635	6,298	7,500	8,000	8,400	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0898	事務事業名	博物館展示事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和30年に大船渡市立科学館として発足、資料収集に着手し、昭和38年から一般公開を開始した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
常設展示は、昭和57年の新館開館から「大船渡 その海と大地」をテーマとし、映像展示室・地質展示室・考古民俗展示室の3室で公開を始めた。平成3～5年度に常設展示改修を実施し低年齢層向けの「たいけんコーナー」を加えて4室での公開となり、平成10・11年度には視聴覚設備更新と映像展示室のリニューアル、平成22・23年度にはプロジェクター・古生態復元図の更新、考古・民俗展示室の常設展示改修を実施した。平成30年度には東日本大震災津波映像「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡～」(多言語対応)を制作し、シアター等の視聴覚設備を更新して公開している。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・市民から、市政懇談会において漁具以外の民俗資料の展示充実を提言されている。
・団体入館者から、学芸員による常設展示等の説明を受けた際には展示資料への理解が深められると好評である。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▼ 理由・内容 展示事業の推進は、博物館資料(文化財を含む)の公開・活用に直結する。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▼ 理由・内容 市の生涯学習施設である博物館が、展示事業を通して博物館資料(文化財を含む)を公開・活用することは、市の施策として妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▼ 理由・内容 市民や碁石海岸を訪れる観光客に博物館資料を公開活用する事業であり、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない ▼ 理由・内容 日常から調査研究の意識を持ちつつ、展示企画のテーマや資料の調査研究に余裕を持った期間を設定して実施することにより、さらに質の高い展示を企画する向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▼ 理由・内容 資料を公開する機会がなくなり、博物館資料(文化財を含む)の活用に重大な支障をきたす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▼ 理由・内容 最低限の経費で運用している。 企画展示では、ポスターを手作りとし、また解説パネルを再利用など経費削減に努めている。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▼ 理由・内容 費用を最小限にして市民の興味を喚起する展示を行うためには、事前の資料収集・調査研究をはじめとして企画内容の工夫などに専門職員(学芸員)が相当な時間をかけることはやむを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▼ 理由・内容 一般の入館者からは入館料を徴収している。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性 2 改革改善(縮小・統合含む)	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 より質の高い展示を企画するため、資料の収集保管活動とともに、調査研究活動に費やす時間を確保する努力をして、展示テーマ・展示資料の選定に結びつける。																					
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

4 課長等意見

(1) 今後の方向性 2 改革改善(縮小・統合含む)	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容 市制施行記念行事に関連付けるなど、機会を捉えて企画展示を積極的に開催している。SNS等を活用して情報発信を行い、県内外の専門家の関心を集めている。今後も計画的に調査研究を行い質の高い展示に努めながら、内容や情報発信に工夫を凝らし、市民や観光客、専門家など、より多くの来館者に当市の自然、文化の魅力を発信できるよう努める必要がある。
-------------------------------	--